

# 真駒内と共に生きる。

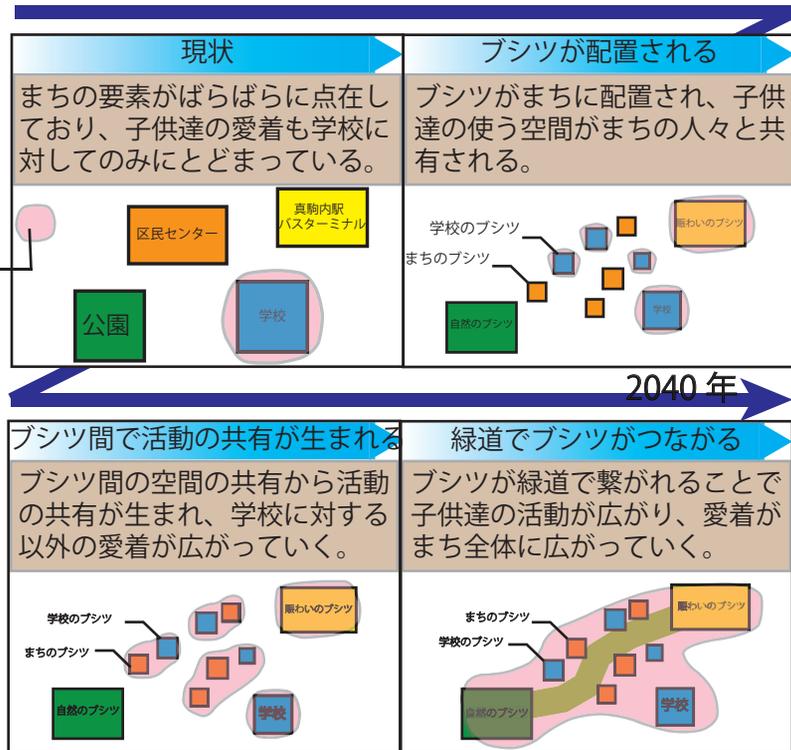
本提案では、札幌市の中で最も人口減少、高齢化率が深刻な南区の中心地である真駒内が 2040 年にも元気なまちである為に、子育て世代になった時に真駒内に帰って来るようになることを目指し、『ブシツ(部室)』をまちに配置する事によって子供達が真駒内の固有の環境を知覚し触れることで愛着を育むことをコンセプトとしている。

- ◎愛着の定義 : 思い出の蓄積によっ育まれるものであり、まちへの「愛着」はそのまちでしか得られない思い出の蓄積によって育まれるもの。
- ◎真駒内の課題 : まちには自然・歴史・盛んなコミュニティ活動など多くの資源があるにもかかわらず、それらが埋もれてしまっていて子供達の活動にあまり関わっていない。
- ◎ブシツ : まちの人々が活動をする場所。ブシツは学校のブシツ・自然のブシツ・まちのブシツ・賑わいのブシツの4つに分類される。
- ◎ブシツの役割 : 子供達はブシツを通してまちの人々と空間を共有し、活動を共有する。それぞれのブシツにおいて活動する事で埋もれていたまちの資源を発見し、その資源に関わる活動をすることで直接感じることができる。真駒内固有の思い出ができることにより愛着が生まれる。

## プロポーザル & ダイアグラム

子供の愛着の広がりを表す

愛着がブシツによって生み出され、緑のネットワークにより愛着が広がっていく。



## 駅前地区配置計画

真駒内駅前の真駒内中学校を中心に、東西の歩行者道路を軸として『ブシツ』空間を配置。ブシツにより世代無関係にコミュニティが生まれ愛着を育む。そして、そのブシツを繋ぐ緑のネットワークにより回遊性を促し、更なる愛着が醸成される。

